

2013 年度 第 3 回 鋼構造運営委員会 議事録

- 1 . 日時** 平成 25 年 8 月 29 日(木) 15 時 10 分 ~ 17 時 00 分
- 2 . 場所** 会議・研修施設 ACU
- 3 . 出席者** 多田元英, 井戸田秀樹, 一戸康生, 笠井和彦, 向野聡彦, 河野 守, (敬称略) 吹田啓一郎, 田川泰久, 竹内 徹, 玉井宏章, 寺田岳彦, 成原弘之, 西山 功, 藤澤一善, 藤田正則, 増田浩志, 緑川光正, 山田文富, 宇佐美徹(記録)
欠席:岡本哲美, 越智健之, 河野昭彦, 木村祥裕, 澤本佳和, 中込忠男, 中島正愛

4 . 配付資料

- 03-01 2013 年度第 3 回鋼構造運営委員会議事予定(多田主査)
03-02 2013 年度第 2 回鋼構造運営委員会議事録(案)(宇佐美)
03-03 構造本委員会の動き
03-04
03-05
03-06 2013 年度第 2 回鋼構造制振小委員会議事録(案)他(緑川委員)
03-07 鋼構造耐火設計小委員会第 15 回議事録(案)(河野^守委員)
03-08
03-09
03-10 2013 年度鋼構造塑性設計小委員会第 2 回議事録(案)(玉井委員)
03-11
03-12 2014 年度日本建築学会鋼構造運営委員会 PD(玉井委員), 2014 年鋼構造 PD 企画案(吹田委員)
03-13 「規準・指針類の国外情報発信」について(多田主査)
03-14 質疑回答の一覧(井戸田委員)
03-15 鋼構造運営委員会 HP について(宇佐美)

5 . 議事内容

- (1) 資料 03-02 に基づき前回議事録の確認がなされた .
- (2) 資料 03-03 に基づき, 多田主査より構造本委員会の動きについて説明がなされた .
- ・ 2013 年度大会学術講演会・建築デザイン発表会発表題数は全体:7,197(6,777('12)), 構造:2,539(2,397), 鉄骨構造:362(301), (振動:620, RC:407, 木造:327)
 - ・ 2014 年度大会は神戸大にて 9/12~14 に開催予定でプログラム編成会議は 4/22(火) .
 - ・ 2014 年度大会 OS、発表部門細分類・細々分類の変更がある場合は, 多田主査へ連絡のこと .
 - ・ 11/18 までに来年度大会 PD の書類を提出すること .

- ・ AIJ デジタルライブラリで、PD 資料などを大会 1 年後かつ残部がないときに無償公開する。
 - ・ 建築会館ホールを含む複数会場(地方開催含む)で開催の講習会・シンポジウムについても動画配信の協力依頼があった。
 - ・ 2014 年度委員会活動計画案・予算原案および関係書類提出が 10/25 締切なので、各自対応をお願いしたい。
 - ・ 11/19 の構造本委員会で、鋼構造運営委員会の活動報告を行う。
 - ・ 卒業論文等顕彰事業委員会委員へは、木村委員(東北大)を推薦した。
 - ・ 鋼構造柱脚 WG と梁端混用接合 WG は承認された。
 - ・ 規準・指針類の英文化の着手について、各運営委員会(鋼構造、合成構造、振動)の活動内容を 8/29 の構造本委員会で承認(活動費は各 30 万円配分)
 - ・ 2014 年度開始特別研究委員会は、RC 主体とする鋼構造、木質構造、材料で提案(キーワード:劣化、損傷)され、山田先生、松本先生、伊山先生が参加予定。
- (3) 資料 03-06, 03-07, 03-09, 03-10 に基づき、各担当委員より小委員会報告がなされた。
- 座屈小委員会(井戸田委員), 接合小委員会(増田委員), 環境小委員会(藤田委員), 東日本大震災鋼構造被害検討 WG(緑川委員)
- ・ 特になし。
- 制振小委員会(資料 03-06, 緑川委員)
- ・ 緑川委員より鋼構造運営委員会査読結果、修正方針について説明がなされた。
 - ・ 査読者の竹内委員、一戸委員の了解後、多田主査へ連絡し、構造本委員会査読へ移行する。経過は 12/9 の鋼構造運営委員会で報告する。(緑川委員)
 - ・ 秋に刊行企画書を提出する予定である。(緑川委員)
- 耐火設計小委員会(資料 03-07, 河野^守委員)
- ・ 指針の 1 章(総則)についての議論に関して説明がなされた。
- 素材小委員会(山田委員)
- ・ 小委員会で PD 前の調整をした旨が説明された。
 - ・ 収集したデータはいずれ公開するつもりである。(山田委員)
- 塑性設計小委員会(玉井委員)
- ・ 本委員会意見に関して議論された旨が説明された。
 - ・ 部材と接合部の変形の考え方については、今後の活動の中で明確化していきたい。(玉井委員)
- (4) 資料 03-12 に基づき、来年度大会 PD の企画について検討がなされた。多数決の結果、”塑性設計法の過去、現在そして未来”となった。
- ・ 次々年度となるとどうなるか。(河野^守委員)
 - 意味がなくなる。(玉井委員)
 - 旬は今である。(吹田委員)
 - ・ “巨大海溝型地震・内陸地震に対する鋼構造の取り組み”は S 造超高層の長周期や直下型地震の影響とその対策と言った構成ではどうか。(西山委員)
 - 近々の PJ を横並びで紹介したいと考えている。(吹田委員)

- ・ “巨大海溝型地震・内陸地震に対する鋼構造の取り組み”は鋼構造に留まらない内容に感じられる。(向野委員)
重要なテーマであるので、範囲を広げ PD 以外で実施してはどうか。(笠井委員)
- (5) 資料 03-13 に基づき、規準・指針の英文化のための WG について議論がなされた。
 - ・ WG の取りまとめは岡崎先生(北大)に依頼し、田川委員に相談役として参画してもらう。(多田主査)
 - ・ WG 設置申請書と刊行企画書を提出のこと。(緑川委員)
 - ・ 査読は運営委員会(運営委員会の判断による)と構造本委員会で実施する。(緑川委員)
- (6) 資料 03-14 に基づき、井戸田委員より「鋼構造物の座屈に関する諸問題 2013」講習会の質疑について説明がなされた。
- (7) 資料 03-15 に基づき、宇佐美より鋼構造運営委員会の HP の現況を説明し、各小委員会主査にアップデートの依頼を行った。

6. その他

- ・ 今後の重点審議は次の通り。
 - ✓ 次回運営委員会(12/9):被害報告 WG, 接合小委員会
 - ✓ 第 5 回運営委員会(3 月末):座屈小委員会
- ・ 今後の運営委員会の日時, 場所は以下の通り。
 - 第 4 回運営委員会 2013 年 12 月 9 日(月), 13:00 より建築会館で実施。
 - 第 5 回運営委員会 2014 年 3 月末